

各関係機関長 殿

徳島県立農林水産総合技術支援センター
病害虫防除所長
(公印省略)

令和3年度農作物病害虫発生予察情報について

令和3年度農作物病害虫発生予報第3号を発表したので送付します。

令和3年度農作物病害虫発生予報第3号

令和3年6月1日
徳島県

I. 普通作物

早期水稲

いもち病(葉いもち)

1) 予報内容

発生時期 平年並(前年並)
発生量 平年並(前年並)で、発生程度は「少」

2) 予報の根拠

- (1) 5月第5半旬の巡回調査では、発生を認めていない(平年同時期は発生圃場率が0.5%、発病度が0.0)。なお、補植用置き苗には発生を認めていない。
- (2) 高松地方気象台が5月27日に発表した1か月予報では、気温は平年より高く、降水量及び日照時間はほぼ平年並みで、平年と同様に曇りや雨の日が多いと予想されており、やや発生助長的な気象条件である。

3) 防除上注意すべき事項

- (1) 補植用置き苗は、葉いもちの発生源になるので、補植が終わり次第速やかに処分する。
- (2) 早期発見に努め、発生を認めたら直ちに液剤による防除を行う。また、常発田では粒剤を予防散布する。

普通期水稲

いもち病(葉いもち)

1) 予報内容

発生時期 平年並(前年並)
発生量 平年並(前年並)で、発生程度は「少」

2) 予報の根拠

- (1) 5月第5、6半旬の巡回調査では、発生を認めていない(平年同時期は発生圃場率が1.3%、発病度が0.1)。なお、補植用置き苗には発生を認めていない。
- (2) 高松地方気象台が5月27日に発表した1か月予報では、気温は平年より高く、降水量及び日照時間はほぼ平年並みで、平年と同様に曇りや雨の日が多いと予想されており、やや発生助長的な気象条件である。

3) 防除上注意すべき事項

- (1) 補植用置き苗は、葉いもちの発生源になるので、補植が終わり次第速やかに処分する。
- (2) 早期発見に努め、発生を認めたら直ちに液剤による防除を行う。また、常発田では粒剤を予防散布する。

イネミズゾウムシ

1) 予報内容

発生量 平年よりやや多く(前年並)、発生程度は「中」

2) 予報の根拠

- (1) 5月第5, 6半旬の巡回調査では, 発生圃場率が25.0%, 25株当たり成虫数が0.8頭と, 平年(20.4%, 0.7頭)に比べてやや高い。
- (2) 高松地方気象台が5月27日に発表した1か月予報では, 気温は平年より高く, 降水量及び日照時間はほぼ平年並みで, 平年と同様に曇りや雨の日が多いと予想されており, 発生助長的な気象条件である。

3) 防除上注意すべき事項

- (1) 発生状況に注意し, 殺虫剤の育苗箱施用を行っていない圃場で成虫が多発した場合には, 薬剤を水面施用する。
- (2) 根腐れしやすい水田では幼虫被害が発生しやすいので, 深水を避け, 根を健全に保つ。

サツマイモ

アブラムシ類

1) 予報内容

発生量 平年より少なく(前年より少ない), 発生程度は「少」

2) 予報の根拠

- (1) 5月第6半旬の巡回調査では, 発生圃場率が30.8%, 寄生株率が2.5%と, 平年(66.1%, 22.9%)に比べて低い。
- (2) 高松地方気象台が5月27日に発表した1か月予報では, 気温は平年より高く, 降水量及び日照時間はほぼ平年並みで, 平年と同様に曇りや雨の日が多いと予想されており, 発生には中間的な気象条件である。

3) 防除上注意すべき事項

- (1) 多発すると防除が困難になるので初期防除に努める。アブラムシ類は葉裏や芯芽に寄生しているので, 葉裏にも薬剤が付着するよう丁寧に散布する。

イモキバガ

1) 予報内容

発生量 平年並(前年よりやや多い)で, 発生程度は「少」

2) 予報の根拠

- (1) 5月第6半旬の巡回調査では, 発生圃場率が7.7%, 被害葉率が0.1%と, 平年(7.2%, 0.6%)並の発生である。
- (2) 高松地方気象台が5月27日に発表した1か月予報では, 気温は平年より高く, 降水量及び日照時間はほぼ平年並みで, 平年と同様に曇りや雨の日が多いと予想されており, 発生には中間的な気象条件である。

3) 防除上注意すべき事項

- (1) 発生初期に, 薬剤を散布する。

ハダニ類

1) 予報内容

発生量 平年並(前年よりやや少なく)で, 発生程度は「少」

2) 予報の根拠

- (1) 5月第6半旬の巡回調査では, 発生圃場率が46.2%と, 平年(44.3%)並の発生であるが, 寄生葉率は0.6%と, 平年(3.6%)に比べてやや低い。
- (2) 高松地方気象台が5月27日に発表した1か月予報では, 気温は平年より高く, 降水量及び日照時間はほぼ平年並みで, 平年と同様に曇りや雨の日が多いと予想されており, 発生には中間的な気象条件である。

3) 防除上注意すべき事項

- (1) 多発すると防除が困難になるので初期防除に努める。ハダニ類はほとんど葉裏に寄生しているので, 葉裏にも薬剤が付着するよう丁寧に散布する。

II. 果樹

カンキツ

ヤノネカイガラムシ

1) 予報内容

発生時期 平年並(前年並)

2) 予報の根拠

(1) 県予察圃場（勝浦町）での第1世代幼虫は、5月14日に初発生を認めた（平年：5月16日，前年：5月14日）。

3) 防除上注意すべき事項

- (1) 有機リン剤による防除適期は，ふ化幼虫発生の35～40日後である。
- (2) スダチでは，有機リン剤による防除は行わない。

果樹共通

果樹カメムシ類

1) 予報内容

発生量 平年並～やや少なく（前年よりやや多い），発生程度は「少～中」

2) 予報の根拠

- (1) フェロモントラップにおける5月第1～5半旬のチャバネアオカメムシ誘殺数
石井町における調査では29頭と，平年(135.6頭)に比べて少ない(表1)。
- (2) 予察灯における5月第1～5半旬の果樹カメムシ類の誘殺数
勝浦町では，ツヤアオカメムシ・チャバネアオカメムシ・クサギカメムシの3種合計が136頭と，平年(337.3頭)に比べて少ない(表2)。
上板町では，ツヤアオカメムシ・チャバネアオカメムシ・クサギカメムシの3種合計が302頭と，平年(204.3頭)並の発生である(表2)。
- (3) チャバネアオカメムシの越冬密度
2月に実施したチャバネアオカメムシの越冬調査(11地点×2か所調査)では，6地点で越冬を確認した。越冬成虫は0.8頭/m²であり，前年(成虫確認地点数は5地点，越冬成虫数は0.7頭/m²)並で，平年(2.3頭/m²)並の越冬密度であった。
- (4) 高松地方気象台が5月27日に発表した1か月予報では，気温は平年より高く，降水量及び日照時間はほぼ平年並みで，平年と同様に曇りや雨の日が多いと予想されており，発生には中間的な気象条件である。

3) 防除上注意すべき事項

- (1) 果樹園周辺の山林や雑木林から成虫が飛来してくるので，園内を巡回し，飛来を確認したら早急に防除を行う。
- (2) 夜行性の虫なので，薬剤の散布は夕方か早朝に実施すると効果が高い。
- (3) 移動性が大きいので，広域一斉防除により防除効果の向上に努める。

表1 フェロモントラップによるチャバネアオカメムシの誘殺数推移（単位は頭，石井町）

月	半旬	2021年	2020年	2019年	2018年	平年
4月	1半旬	0	0	0	3	0.4
	2半旬	0	0	0	2	0.3
	3半旬	0	0	0	3	0.6
	4半旬	2	0	1	6	1.6
	5半旬	6	1	24	2	3.8
	6半旬	1	3	3	2	3.6
5月	1半旬	4	4	63	8	21.1
	2半旬	7	0	8	2	24.0
	3半旬	8	1	57	6	34.2
	4半旬	6	2	64	1	27.6
	5半旬	4	4	42	5	28.7
	6半旬		2	20	1	29.7
6月	1半旬		6	19	2	15.2
	2半旬		2	15	1	14.3
	3半旬		3	7	1	11.1
	4半旬		1	24	2	9.7
	5半旬		2	22	4	14.2
	6半旬		4	52	5	22.6

表2 果樹カメムシ類の予察灯による誘殺数推移（単位は頭）

地点名	月	半旬	ツヤアオカメムシ			チャバネアオカメムシ			クサギカメムシ			3種合計			
			2021年	2020年	平年	2021年	2020年	平年	2021年	2020年	平年	2021年	2020年	平年	
勝浦町	04月	1半旬	0	0	0.1	0	0	0	0	0	0	0	0	0.1	
		2半旬	0	0	0.0	0	0	0	0	0	0	0	0	0.0	
		3半旬	0	0	0.0	0	0	0	0	0	0	0	0	0.0	
		4半旬	0	0	0.0	0	0	0.4	0	0	0	0	0	0.4	
		5半旬	0	0	3.0	0	0	0.9	0	0	0	0	0	3.9	
		6半旬	0	0	6.0	0	0	4.4	0	0	0	0	0	10.4	
	05月	1半旬	0	3	40.1	0	0	10.5	0	0	0.13	0	3	50.8	
		2半旬	1	11	43.9	0	7	9.4	0	0	0	1	18	53.3	
		3半旬	48	3	71.1	42	0	14.5	0	0	0	90	3	85.6	
		4半旬	17	14	102.3	20	7	26.1	0	0	0.25	37	21	128.6	
		5半旬	3	15	43.5	5	6	15.3	0	0	0.25	8	21	59.0	
		6半旬		6	69.8		4	29.4		0	0.25		10	99.4	
	06月	1半旬		9	46.6		1	8.4		0	0		10	55.0	
		2半旬		12	117.4		6	9.1		0	0		18	126.5	
		3半旬		27	79.1		8	15.0		0	0.25		35	94.4	
	地点名	月	半旬	ツヤアオカメムシ			チャバネアオカメムシ			クサギカメムシ			3種合計		
				2021年	2020年	平年	2021年	2020年	平年	2021年	2020年	平年	2021年	2020年	平年
	上板町	04月	1半旬	1	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0.0
2半旬			0	0	0	0	0	0.1	0	0	0	0	0	0.1	
3半旬			2	0	0	0	0	0	0	0	0	2	0	0.0	
4半旬			0	1	0.5	0	0	0.4	0	0	0	0	1	0.9	
5半旬			2	0	5.6	3	0	2.8	0	0	0	5	0	8.4	
6半旬			1	4	9.7	0	0	1.9	0	0	0	1	4	11.6	
05月		1半旬	9	43	30.3	2	0	7.5	0	0	0	11	43	37.8	
		2半旬	8	6	21.1	16	2	6.6	0	0	0	24	8	27.7	
		3半旬	121	20	45.9	16	2	12.3	0	0	0.13	137	22	58.3	
		4半旬	69	57	33.7	24	9	11.7	12	0	0.13	105	66	45.5	
		5半旬	4	47	24.8	20	13	9.5	1	0	0.63	25	60	34.9	
		6半旬		14	39.2		4	13.4		2	1		20	53.6	
06月		1半旬		8	21.1		3	8.8		4	0.8		15	30.7	
		2半旬		21	26.7		3	13.3		1	1.4		25	41.4	
		3半旬		30	14.2		4	4.6		0	0.4		34	19.2	

Ⅲ. 野菜

夏ネギ

さび病

1) 予報内容

発生量 平年よりやや少なく(前年並), 発生程度は「少」

2) 予報の根拠

- (1) 5月第6半旬の巡回調査では, 発生を認めていない(平年同時期は, 発生圃場率が22.6%, 発病株率が5.4%)。
- (2) 高松地方気象台が5月27日に発表した1か月予報では, 気温は平年より高く, 降水量及び日照時間はほぼ平年並みで, 平年と同様に曇りや雨の日が多いと予想されており, やや発生助長的な気象条件である。

3) 防除上注意すべき事項

- (1) 気温が17~23℃の時孢子飛散量が増加し蔓延が増加する。
- (2) 多発してからでは防除効果が劣るので, 予防散布や発生初期の防除に重点をおく。ネギには薬液が付着しにくいので, 展着剤を加え, 薬液が確実に葉全体に付着するように散布する。
- (3) 肥料切れして草勢が衰えると発病が助長されるので, 肥培管理を適切に行う。
- (4) 被害葉は伝染源となるので, 圃場周辺に野積み・放置せず, 速やかに処分する。

ネギアザミウマ

1) 予報内容

発生量 平年よりやや少なく(前年よりやや少ない), 発生程度は「少」

2) 予報の根拠

- (1) 5月第6半旬の巡回調査では, 発生圃場率が85.7%, 被害度が4.9と, 平年(90.0%, 11.1)に比べてやや低い。
- (2) 高松地方気象台が5月27日に発表した1か月予報では, 気温は平年より高く, 降水量及び日照時間はほぼ平年並みで, 平年と同様に曇りや雨の日が多いと予想されており, やや発生抑制的な気象条件である。

3) 防除上注意すべき事項

- (1) 播種時又は定植時に粒剤等を土壌処理し, 生育初期の被害を防止する。
- (2) 多発すると防除が困難になるので初期防除に努める。
- (3) 被害葉は有力な発生源となるので, 絶対に圃場周辺に野積み・放置せず, 速やかに処分する。

ネギハモグリバエ

1) 予報内容

発生量 平年より少なく(前年より少ない), 発生程度は「少」

2) 予報の根拠

- (1) 5月第6半旬の巡回調査では, 発生圃場率が14.3%, 被害度が0.1と, 平年(84.4%, 5.5)に比べて低い。
- (2) 高松地方気象台が5月27日に発表した1か月予報では, 気温は平年より高く, 降水量及び日照時間はほぼ平年並みで, 平年と同様に曇りや雨の日が多いと予想されており, やや発生抑制的な気象条件である。

3) 防除上注意すべき事項

- (1) 播種時又は定植時に粒剤等を土壌処理し, 生育初期の被害を防止する。
- (2) 多発すると防除が困難になるので初期防除に努める。
- (3) 被害葉は有力な発生源となるので, 絶対に圃場周辺に野積み・放置せず, 速やかに処分する。

IV. その他

- 1) 薬剤の使用に当たっては必ず使用基準を遵守し, 周辺作物等へ飛散しないように注意する。
- 2) 水田に薬剤を使用したときは, 7日間以上止水する。

発生量の表示

発生程度 : 甚 > 多 > 中 > 少 > 無

発生量 : 多い > やや多い > 並 > やや少ない > 少ない

徳島県立農林水産総合技術支援センター病害虫防除所
URL : <https://www.pref.tokushima.lg.jp/tafftsc/t-boujoshou/>

- 病害虫の発生予察情報, 発生状況, 防除法等をお知らせしています。